



新秋田元気創造プランの振り返り

新秋田元気創造プランにおける令和４年度から令和６年度までの
「主な取組状況と成果」、「現状と課題」を整理した資料



基本政策

犯罪・事故のない地域の実現(目指す姿1)



犯罪被害者週間
「県民のつどい」



ファミリーマートにおける
デジタルサイネージ広告

快適で暮らしやすい生活の実現(目指す姿2)



犬猫合同譲渡会の様子



「命を大切にする心を
育む教室」の様子

目指す姿1 犯罪・事故のない地域の実現

参考資料1 P1～2参照

現状と課題

<① 防犯意識の向上と防犯活動の促進>

- ・本県の刑法犯認知件数は全国最少レベルにあるものの、近年は増加傾向にあることに加え、自主防犯活動団体数の減少や活動員の高齢化が進んでいる。

<② 犯罪被害者等への支援>

- ・近年、年齢や性別を問わず、多様な性犯罪・性暴力による被害が増加傾向にある。

<③ 「人優先」を基本とした交通安全対策の推進>

- ・交通事故発生件数、死者数及び負傷者数のいずれも減少傾向にあるものの、全死者数のうち、高齢者の割合が高い状態が続いている。

主な取組状況と成果

- ・県民や警察等と連携して、防犯情報誌による情報提供や出前講座による啓発活動等の各種施策を推進した結果、刑法犯認知件数の少なさは、全国トップレベルを維持している。
- ・性暴力被害者に対する総合的な支援をワンストップで提供している「あきた性暴力被害者サポートセンター」の周知を図るなど、被害の潜在化防止に取り組んだ結果、相談件数は増加している。
- ・高齢者の交通事故防止に関するテレビCMを放送したほか、高齢者が参加するイベントなどで反射材等を配布し、事故防止に関する注意喚起を行った。



基本政策

目指す姿1 犯罪・事故のない地域の実現

参考資料1 P1～2参照

現状と課題

<④ 総合的な雪対策>

- ・人口減少・少子高齢化に伴い地域の除排雪の担い手が減少している上、依然として高齢者を中心とした除排雪作業中の人的被害が発生している。

<⑤ 自立した消費者の育成と消費者被害の防止>

- ・デジタル化の進展によるオンライン取引の普及など消費者問題が複雑化、多様化している。
- ・成年年齢の引き下げに伴う若年者の消費者被害増加が懸念されるほか、高齢化の進行に伴う高齢者の消費者被害が増加している。

主な取組状況と成果

- ・高齢者世帯等の除排雪活動を実施する地域団体の立ち上げ等を支援したほか、雪下ろし等による事故防止のため、様々な広報媒体により安全な除排雪の普及啓発に取り組んだ。
- ・市町村相談員対象の研修会の実施等を通じ、県内消費生活相談体制の充実強化を図った。
- ・事業者指導による消費者取引・表示の適正化等を確保したほか、自立した消費者を育成するため、リーフレットやウェブ広告等を活用した啓発や、各種出前講座等を通じ、消費者教育の推進を図った。



基本政策

目指す姿2 快適で暮らしやすい生活の実現

参考資料1 P3～4参照

現状と課題

<①食品の安全の確保と水道事業の基盤強化への支援>

- ・HACCPに沿った衛生管理は浸透しつつあるものの、業種や業態によっては、適切な運用ができていない場合が多い。また、新規の認証取得が減少傾向にある。

<② 生活衛生関係営業者への支援>

- ・利用者の減少や経営者の高齢化など、経営を取り巻く環境は厳しい状況が続いており、将来に向けた経営の安定化や後継者の確保が困難な状況が続いている。

<③ 人と動物が共生する地域づくり>

- ・多頭飼育の崩壊や終生飼養の放棄により、感染症や幼弱等の犬猫の収容が減っていないため、殺処分を行わざるを得ない状況が続いている。

主な取組状況と成果

- ・食品事業者等を対象にHACCPや食品の安全に関する知識の普及を目的とした講習会を実施したほか、消費者、事業者、行政関係者等が参加した対話式の地域懇談会を開催し、食品の安全・安心に関する情報の提供と共有を図った。

HACCP(ハサップ)とは・・・

食品等事業者自らが食中毒菌汚染や異物混入等の危害要因(ハザード)を把握した上で、原材料の入荷から製品の出荷に至る全工程の中で、それらの危害要因を除去又は低減させるために特に重要な工程を管理し、製品の安全性を確保しようとする衛生管理の手法

- ・生活衛生関係営業者の経営等に関する助言指導等を行ったほか、中高生を対象に飲食や理美容等の生活衛生関係営業に対する理解と関心を深めてもらうために体験学習を実施した。

生活衛生関係営業者とは・・・

国民の生活に不可欠なサービスや商品を提供する飲食業、理・美容業、クリーニング業、ホテル・旅館業等、18業種を営む者

- ・小中学生を対象に実施した「命を大切にする心を育む教室」やデジタル技術の活用等により、犬猫の譲渡推進や動物の適正飼養への関心が高まった結果、動物愛護センターの入場者が増加するとともに、犬猫の収容頭数が減少した。

基本政策

豊かな自然の保全(目指す姿1)



水質分析のためのサンプリング



アオコ発生抑制装置(自走式アオコロボット)



玉川酸性水中和処理施設

目指す姿1 良好な環境の保全

参考資料1 P5～8参照

現状と課題

<① 大気、水、土壌等の環境保全対策の推進>

・県内の大気、水環境は概ね良好な状態が維持されているが、一部に環境基準未達成の項目がある。

<② 八郎湖・十和田湖・田沢湖の水質保全対策の推進>

・八郎湖については、汚濁負荷量の流入は減少してきており、近年アオコの異常発生は見られていないものの、水質は横ばい傾向が続いている。

アオコとは・・・

植物プランクトン的一种である藍藻類が大量に発生し、湖の表面で緑色の粉をまいたような状態となったもの。

・十和田湖、田沢湖については、概ね良好な水質が維持されているが、十和田湖ではCOD、田沢湖ではpHの環境基準を達成できていない。

COD(化学的酸素要求量)とは・・・

水中の有機物を分解する際に消費される酸素の量。水質の汚濁状況を示す代表的な指標として使われる。

pHとは・・・

水質の酸性・アルカリ性を示す指標。

主な取組状況と成果

・河川・湖沼・海域の111地点で水質の常時監視を実施したほか、県内7か所において大気汚染物質の常時監視を継続して行い、概ね良好な状態であることを確認した。

・環境法令に基づき、工場・事業場に対する監視・測定を実施し、必要に応じて改善指導を行った。

・八郎湖については、「八郎湖に係る湖沼水質保全計画(第3期)」に基づき、河川への遡上防止用フェンスの設置や発生抑制装置等によるアオコ対策、無落水移植栽培等の普及拡大による水質保全型農業の推進などの面発生源対策等に取り組んだ。

・十和田湖については、「十和田湖水質・生態系改善行動指針」に基づき、青森県と協同して水質調査によるモニタリングを継続して行った。

・田沢湖については、国との協定に基づき玉川中和処理施設の維持管理費用を負担し、玉川酸性水の中和処理に努めるとともに、玉川流域及び田沢湖の水質調査によるモニタリングを継続して行った。また、水質改善に関して関係機関による情報共有や意見交換を実施した。



基本政策

豊かな自然の保全(目指す姿2)



環境学習会における植樹の様子



老朽化した橋梁の改修



狩猟の魅力まるわかりフォーラムの様子

目指す姿2 豊かな自然の保全

参考資料1 P9～10参照

現状と課題

<① 生物の多様性の確保と自然公園等の適正な管理>

- ・生物多様性の意味や重要性に対する県民の認識・理解が十分とは言えないため、様々な形での普及啓発が必要である。
- ・白神山地を案内できるガイドが高齢化しており、保全と利活用を両立できるガイドを育成する必要がある。
- ・豊かな自然とふれあう場を提供するため、老朽化等により利用に支障を来す自然公園施設について、改修等の利便性向上対策が求められている。

<② 野生鳥獣の適正な保護管理と被害対策の推進>

- ・野生鳥獣の分布の拡大や生息数の増加により、人的被害や農林業被害が生じている。

主な取組状況と成果

- ・奥森吉青少年野外活動基地における宿泊型環境学習会及び安本自然環境保全地域における魚類観察会などの実施により、生物多様性の保全に関する県民の意識の醸成が図られた。
- ・白神山地の魅力を来訪者に伝えるとともに保全活動を行う「あきた白神認定ガイド」を確保するための認定講習(2名)及び更新講習(18名)を実施した。
- ・自然環境整備交付金等を活用し、老朽化等による自然公園施設の改修整備を行い、自然公園の利活用の向上を図った。
- ・ツキノワグマの市街地出没等を想定した研修や実地訓練、出没対応を支援したほか、ニホンジカ・イノシシの個体数増加と生息域拡大を抑制するため、捕獲技術研修や捕獲強化等を実施し、野生鳥獣による人的・農林業被害の低減に努めた。